



トップ製薬企業を目指して

2013年第2四半期 連結決算概要 (IFRS)

中外製薬株式会社
取締役専務執行役員 CFO
板谷 嘉夫

2013.7.25/26

将来見通し



本プレゼンテーションには、中外製薬の事業及び展望に関する将来見通しが含まれていますが、いずれも、既存の情報や様々な動向についての中外製薬による現時点での分析を反映しています。実際の業績は、事業に及ぼすリスクや不確定な事柄により現在の見通しと異なることもあります。

注：本資料の数値は億円未満を四捨五入して表示
増減、%は億円単位で表示された数字で計算

2013年第2四半期 連結決算概要



■ 売上収益 2,010億円（前年同期比+8.4%）

- 国内製商品（タミフルを除く）：エビスタ販売提携終了と薬価改定影響をがん領域・新製品の成長で補い微増（同 +1.0%）
- 海外製商品：円安影響及びアクテムラ輸出増により約3割増
- ロイヤルティ及びその他の営業収入：マイルストーン収入の増加により倍増

■ 経費

- 円安影響に伴う海外販社経費及び研究開発費の増加等を主因として二桁増

■ 損益

- IFRS損益：営業利益381億円（同 +4.7%）、四半期利益253億円（同 +15.0%）
- Core営業利益 387億円（同 +4.9%）
- Core EPS 46.06円（同 +14.4%）

IFRS実績及びCore実績 1-6月実績



【億円】	2013年 1-6月	Non-Core調整		Core実績 2013年 1-6月
		無形資産・ 合併会計	その他の 除外事項	
売上収益	2,010			2,010
製商品売上高	1,888			1,888
ロイヤルティ及び その他の営業収入	122			122
売上原価	▲ 883	+4		▲ 879
売上総利益	1,127	+4		1,131
経費計	▲ 746	+0	+1	▲ 744
販売費	▲ 341	+0	+1	▲ 340
研究開発費	▲ 349	+0	+1	▲ 348
一般管理費等	▲ 56		▲1	▲ 57
営業利益	381	+5	+1	387
金融費用	▲ 0			▲ 0
その他の金融収入(支出)	▲ 12			▲ 12
税引前四半期利益	369	+5	+1	375
法人所得税	▲ 117	▲2	▲0	▲ 119
四半期利益	253	+3	+1	256
当社の株主持分	247	+3	+1	251
非支配持分	5			5

Non-Core(除外)項目

1. 無形資産・合併会計
無形資産償却費: +5億円
無形資産の減損、合併会計に該当は
ありません。

2. その他の除外事項
事業所再編費用: +2億円
環境対策費用: ▲1億円
訴訟費用: 軽微

Core四半期利益
(当社株主帰属) 251 億円

希薄化効果後
加重平均
普通株式数 545 百万株

Core EPS 46.06 円

前年同期比 Core

損益の概要 1-6月実績



【億円】	2012年1-6月		2013年1-6月		増減	
	対売上収益		対売上収益			
売上収益	1,855		2,010		+155	+8.4%
製商品売上高	1,801		1,888		+87	+4.8%
タミフルを除く	1,719		1,798		+79	+4.6%
国内	1,505		1,520		+15	+1.0%
ロシュ向け輸出	134		184		+50	+37.3%
その他海外	81		94		+13	+16.0%
タミフル	81		90		+9	+11.1%
通常	78		82		+4	+5.1%
行政備蓄等	4		8		+4	+100.0%
ロイヤルティ及びその他の営業収入	54		122		+68	+125.9%
売上原価	▲ 813	43.8%	▲ 879	43.7%	▲ 66	+8.1%
売上総利益	1,042	56.2%	1,131	56.3%	+89	+8.5%
経費計	▲ 673	36.3%	▲ 744	37.0%	▲ 71	+10.5%
営業利益	369	19.9%	387	19.3%	+18	+4.9%
金融費用	▲ 0		▲ 0		+0	0.0%
その他の金融収入(支出)	▲ 12		▲ 12		+0	0.0%
法人所得税	▲ 133		▲ 119		+14	▲10.5%
四半期利益	223	12.0%	256	12.7%	+33	+14.8%

【主な増減】

ロイヤルティ及びその他の営業収入	+68億円
マイルストーン収入の増加等	
金融費用	+0億円
その他の金融収入(支出)	+0億円
為替差損益	▲30億円
デリバティブ損益	+30億円

製商品原価率

2012年1-6月	2013年1-6月
45.1%	46.6%

期中平均レート(円)

	2012年 1-6月	2013年 1-6月
CHF	85.82	101.94
EUR	103.39	125.33

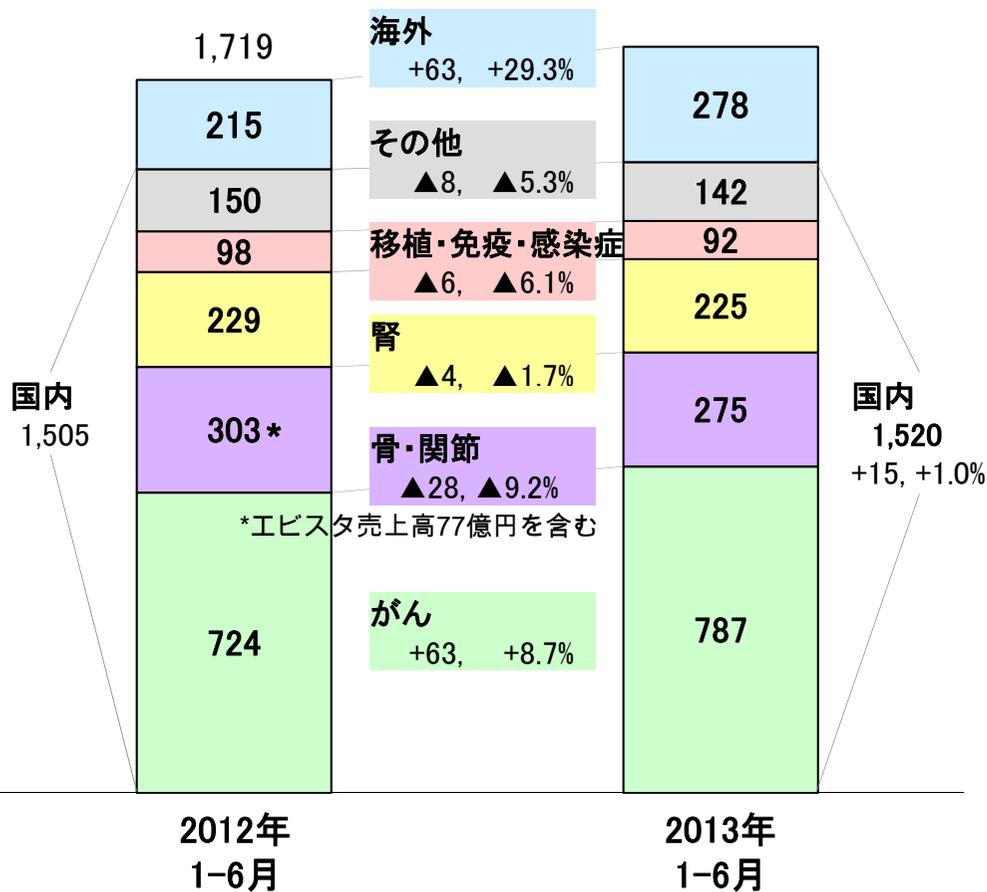
前年同期比

製商品売上高（タミフルを除く）の増減内訳 1-6月実績

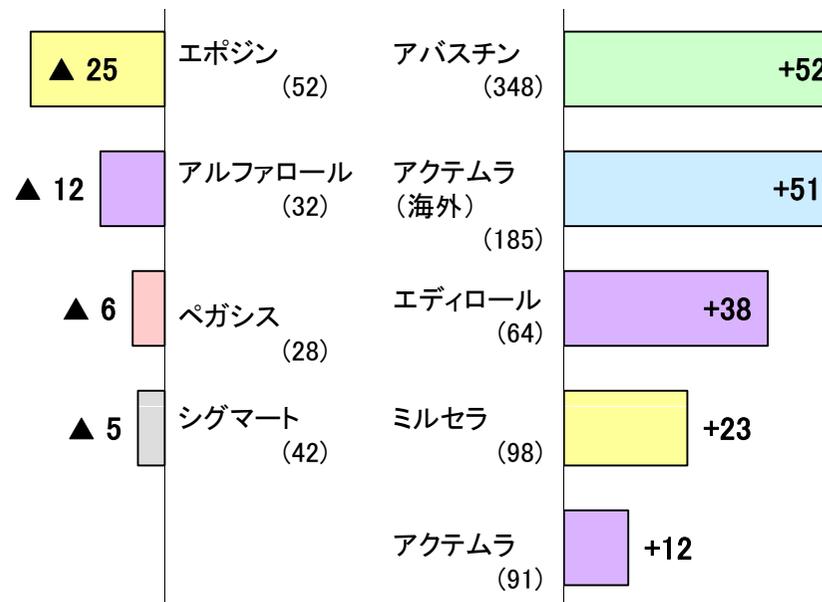


【億円】

製商品売上高(タミフルを除く)
1,798億円 (+79, +4.6%)



個別製品の主な増減



左図: 領域別
右図: 個別製品
(前年同期比、()内は2013年実績)

タミフルの売上状況



【億円】		決算期売上									シーズン 売上	定点観測数* (百万人)
		2009年12月期		2010年12月期		2011年12月期		2012年12月期		2013年 12月期		
		1-6月	7-12月	1-6月	7-12月	1-6月	7-12月	1-6月	7-12月	1-6月		
通常	2008-09	110									167	1.27
	2009-10		252	14							266	2.02
	2010-11				2	41					43	1.26
	2011-12						13	78			91	1.63
	2012-13								24	82	106	1.11
通常		362 (+291)		16 (▲346)		54 (+38)		102 (+48)				
行政 備蓄等	2008-09	144									155	
	2009-10		256	106							362	
	2010-11				59	5					64	
	2011-12						28	4			32	
	2012-13								15	8	23	
行政備蓄等		400 (+387)		166 (▲234)		33 (▲133)		19 (▲14)				
合計		254	508	120	61	46	41	81	39	90		
		762 (+678)		182 (▲580)		87 (▲95)		120 (+33)				

()内は前期比

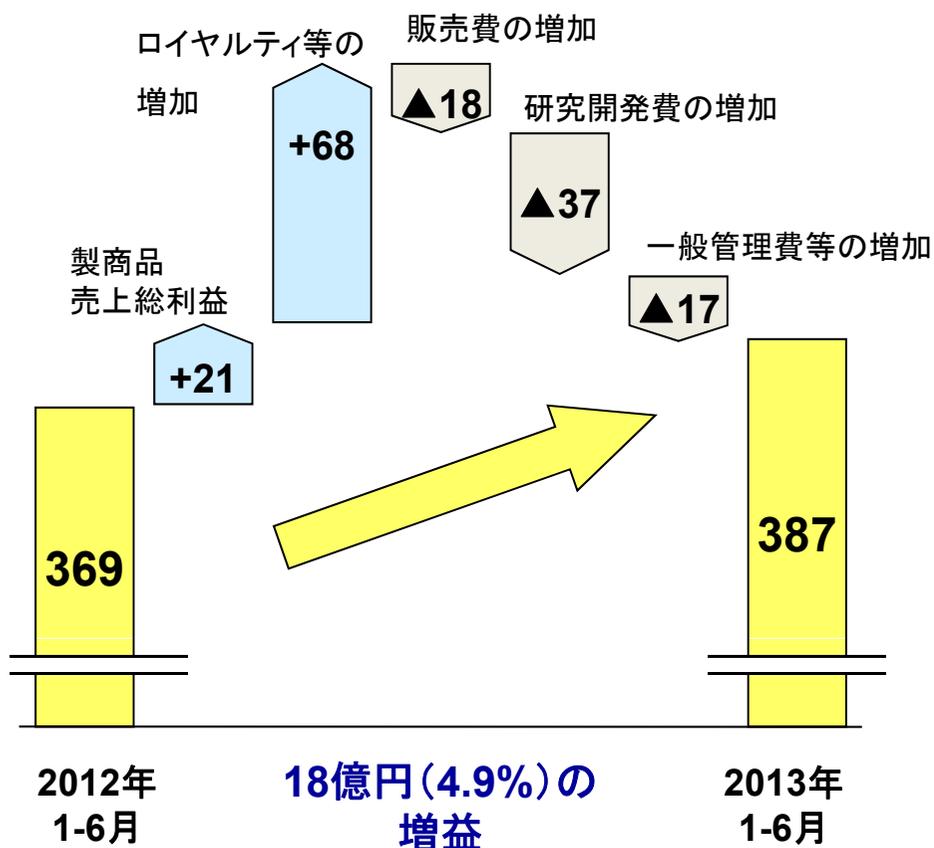
* 国立感染症研究所「感染症発生動向調査」10月下旬から4月中旬(2009-10シーズンは2009年7月初旬から2010年3月中旬)の合計患者数

前年同期比 Core

営業利益の増減内訳 1-6月実績



【億円】



【億円】	2012年 1-6月	2013年 1-6月	増減
売上収益	1,855	2,010	+155
売上原価	▲ 813	▲ 879	▲ 66
売上総利益	1,042	1,131	+89
うち製商品	988	1,009	+21
ロイヤルティ等	54	122	+68
販売費	▲ 322	▲ 340	▲ 18
研究開発費	▲ 311	▲ 348	▲ 37
一般管理費等	▲ 40	▲ 57	▲ 17
営業利益	369	387	+18

製商品売上総利益の増加	+21億円
新製品、海外アクテムラの増加	
ロイヤルティ及びその他の営業収入の増加	+68億円
販売費の増加	▲18億円
円安による海外販社経費の増加 等	
研究開発費の増加	▲37億円
円安影響、CPR*活動増 等	
一般管理費等の増加	▲17億円
諸経費の増加	

前年同期比 Core

損益の概要 4-6月実績



【億円】	2012年4-6月		2013年4-6月		増減	
	対売上収益		対売上収益			
売上収益	952		1,106		+154	+16.2%
製商品売上高	933		1,018		+85	+9.1%
タミフルを除く	930		1,011		+81	+8.7%
国内	824		832		+8	+1.0%
ロシュ向け輸出	66		133		+67	+101.5%
その他海外	41		46		+5	+12.2%
タミフル	3		7		+4	+133.3%
通常	3		7		+4	+133.3%
行政備蓄等	-		-		-	-
ロイヤルティ及びその他の営業収入	19		88		+69	+363.2%
売上原価	▲ 419	44.0%	▲ 473	42.8%	▲ 54	+12.9%
売上総利益	532	55.9%	633	57.2%	+101	+19.0%
経費計	▲ 345	36.2%	▲ 396	35.8%	▲ 51	+14.8%
営業利益	188	19.7%	236	21.3%	+48	+25.5%
金融費用	▲ 0		0		+0	-
その他の金融収入(支出)	▲ 9		▲ 2		+7	▲77.8%
法人所得税	▲ 66		▲ 73		▲ 7	+10.6%
四半期利益	113	11.9%	162	14.6%	+49	+43.4%

【主な増減】

ロイヤルティ及びその他の営業収入	+69億円
マイルストーン収入等の増加	
経費等	▲51億円
販売費	▲12億円
円安影響、新製品発売に伴う販促活動増加等	
研究開発費	▲30億円
円安影響、CPR活動増設備関連経費増等	
一般管理費等	▲10億円
諸経費の増加	

製商品原価率

2012年4-6月	2013年4-6月
44.9%	46.5%

予想比 Core

損益の概要 1-6月実績



Roche ロシュグループ

【億円】	実績		期初公表		2012年 進捗率*
	2013年 1-6月	2013年 1-12月	進捗率		
売上収益	2,010	4,160	48.3%		48.0%
製商品売上高	1,888	3,943	47.9%		48.0%
タミフルを除く	1,798	3,855	46.6%		47.3%
国内	1,520	3,293	46.2%		46.9%
ロシュ向け輸出	184	406	45.3%		52.3%
その他海外	94	156	60.3%		48.5%
タミフル	90	88	102.3%		67.5%
ロイヤルティ及び その他の営業収入	122	217	56.2%		47.8%
売上原価	▲ 879	▲ 1,832	48.0%		48.6%
売上総利益	1,131	2,328	48.6%		47.5%
経費計	▲ 744	▲ 1,553	47.9%		46.8%
営業利益	387	775	49.9%		48.8%
EPS (円)	46.06	92.57	49.8%		47.0%

*1-6月実績の通期実績に対する進捗率

予想比

国内製商品売上高（タミフルを除く） 1-6月実績



【億円】	実績		期初公表		2012年 進捗率*
	2013年 1-6月	2013年 1-12月	進捗率		
タミフルを除く国内製商品売上高	1,520	3,293	46.2%		46.9%
がん領域	787	1,754	44.9%		46.4%
アバスチン	348	766	45.4%		45.2%
ハーセプチン	144	304	47.4%		47.0%
ゼローダ	55	139	39.6%		47.7%
タルセバ	46	110	41.8%		47.4%
骨・関節領域	275	543	50.6%		45.7%
アクテムラ	91	191	47.6%		46.2%
エディロール	64	110	58.2%		32.9%
腎領域	225	520	43.3%		47.6%
ミルセラ	98	282	34.8%		42.1%
エポジン	52	86	60.5%		53.1%
移植・免疫・感染症領域	92	181	50.8%		48.3%
ペガシス	28	57	49.1%		49.3%
コペガス	7	12	58.3%		50.0%
その他の領域	142	296	48.0%		49.8%

*1-6月実績の通期実績に対する進捗率

予想比 Core

為替変動の影響について



1-6月利益影響 (期初公表想定レート対比)	
+24億円	
売上収益	アクテムラ(ロシュ向け) +13億円
	ノイトロジン(海外) +6億円
	その他の製品、ロイヤルティ等 +5億円
原価・経費	原価 ▲22億円 経費 ▲7億円
営業利益	▲5億円

実績/想定レート*	1CHF	1EUR
期初予想 想定(通期)	95.00円	115.00円
1-6月実績	101.94円	125.33円
参考:2012年1-6月実績	85.82円	103.39円

*実績は期中市場平均

参考: 為替レート推移 (CHF, EUR)





財政状態の変化（前期末比）

＜資産、負債及び純資産の状況＞

(単位: 億円)	2012年 12月末	2013年 6月末	前期末比
売掛金	1,157	1,092	▲ 65
棚卸資産	1,084	1,141	+ 57
買掛金	▲ 418	▲ 336	+ 82
その他の純運転資本*1	▲ 244	▲ 186	+ 58
純運転資本	1,579	1,711	+ 132
有形固定資産	1,431	1,399	▲ 32
無形資産	65	72	+ 7
その他の長期純営業資産*2	4	▲ 21	▲ 25
長期純営業資産	1,500	1,450	▲ 50
純営業資産 (NOA)	3,079	3,161	+ 82
有利子負債	▲ 3	▲ 3	0
有価証券	1,165	1,229	+ 64
現金及び現金同等物	954	1,005	+ 51
ネット現金	2,117	2,232	+ 115
その他の営業外純資産*3	96	96	0
純営業外資産	2,213	2,327	+ 114
純資産合計	5,292	5,488	+ 196
純資産合計	5,292	5,488	+ 196
資産合計	6,453	6,545	+ 92
負債合計	▲ 1,162	▲ 1,057	+ 105

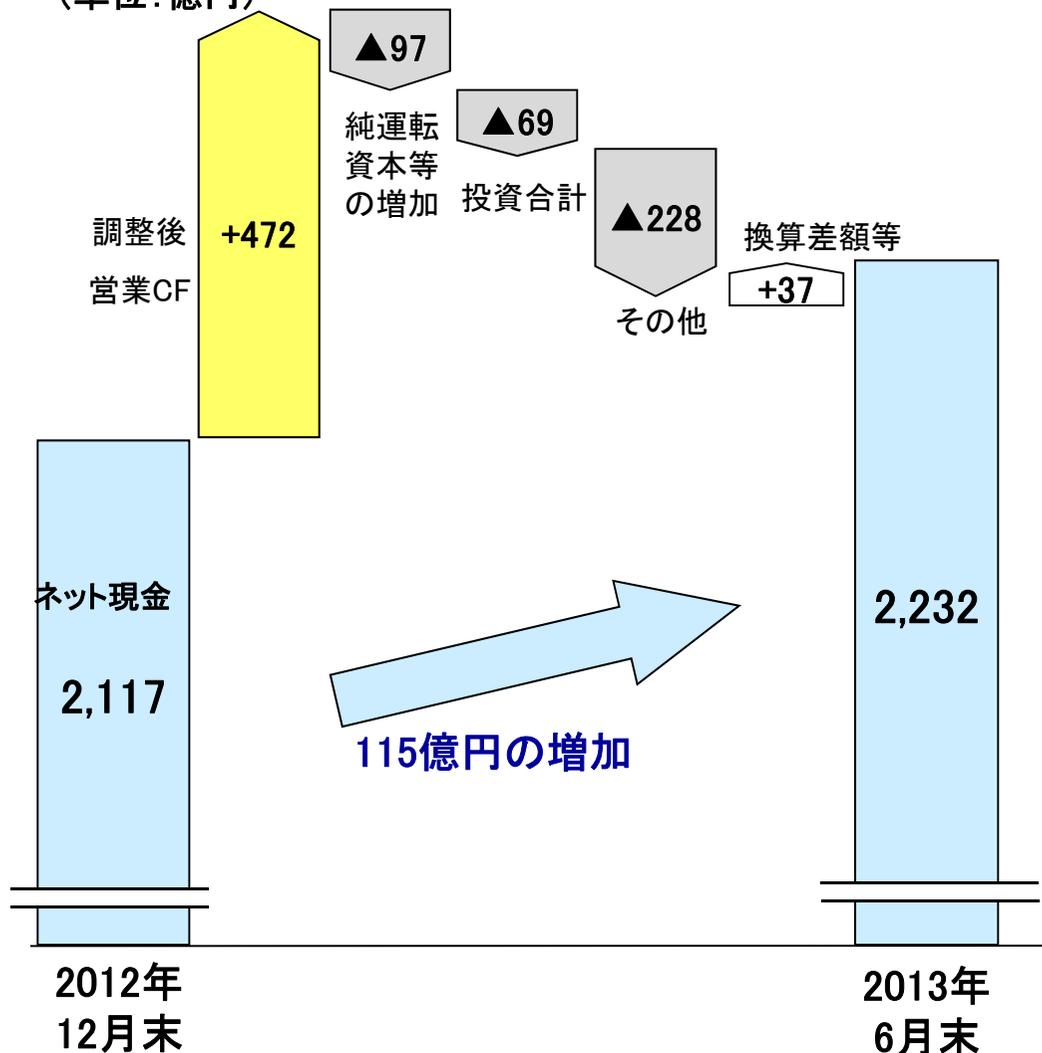
【主な増減】

- 純運転資本の増加 +132億円
 - 売掛金の減少 ▲65億円
 - 主に季節的な要因
 - 棚卸資産の増加 +57億円
 - 売上増・安定供給リスク対応・円安影響
 - 買掛金の減少 +82億円
 - 仕入タイミング等
- 長期純営業資産の減少 ▲50億円
 - 有形固定資産の減少 ▲32億円
- ネット現金の増加 +115億円
- 当社の株主持分に帰属する資本割合 +1.8%pts
 - 2013年6月末 83.6%
 - 2012年12月末 81.8%



ネット現金の増減（前期末比）

（単位：億円）



- 調整後営業CF +472億円
- 純運転資本等の増加 ▲97億円
 - 売掛金の季節要因と仕入支払の増加
 - 売掛金の減少 +68億円
 - 棚卸資産の増加 ▲61億円
 - 買掛金の減少 ▲84億円
- 投資合計 ▲69億円
 - 有形固定資産の取得 ▲65億円
 - 主に研究・工場設備の経常的投資
- その他 ▲228億円
 - 支払法人所得税 ▲119億円
 - 支払配当金 ▲114億円

フリー・キャッシュ・フロー（前年同期比）



(単位:億円)	2012年 1-6月	2013年 1-6月	前年 同期比
営業利益	364	381	+ 17
有形固定資産の減価償却費と減損	64	72	+ 8
無形資産の償却費と減損	4	5	+ 1
営業利益へのその他の調整	▲ 17	13	+ 30
調整後営業キャッシュ・フロー	415	472	+ 57
売掛金の増減額(△:増加)	117	68	▲ 49
棚卸資産の増減額(△:増加)	47	▲ 61	▲ 108
買掛金の増減額(△:減少)	94	▲ 84	▲ 178
その他の純運転資本等の変動	▲ 30	▲ 19	+ 11
純運転資本等の(増加)減少	228	▲ 97	▲ 325
有形固定資産の取得による支出	▲ 71	▲ 65	+ 6
無形資産の取得による支出	▲ 3	▲ 4	▲ 1
投資合計	▲ 74	▲ 69	+ 5
営業フリー・キャッシュ・フロー	569	306	▲ 263
売上収益比率(%)	30.7%	15.2%	▲ 15.5%pts
財務管理	▲ 1	5	+ 6
支払法人所得税	▲ 139	▲ 119	+ 20
支払配当金	▲ 113	▲ 114	▲ 1
フリー・キャッシュ・フロー	315	78	▲ 237
自己株式の減少(増加)	▲ 0	6	+ 6
ネット現金の換算差額等	▲ 3	31	+ 34
ネット現金の純増減	312	115	▲ 197

【主な増減】

- 調整後営業キャッシュ・フロー +57億円
マイルストーン収入等の増加
- 純運転資本等の増減 ▲325億円
仕入支払の増加
棚卸資産の増減 ▲108億円
買掛金の増減 ▲178億円
- 投資合計 +5億円
- 営業フリー・キャッシュ・フロー ▲263億円
売上増・安定供給リスク対応・円安影響により仕入支払増加等
- 売上収益比率 ▲15.5%pts
売上収益 +155億円

開発パイプラインの状況

中外製薬株式会社
常務執行役員
プロジェクト・ライフサイクルマネジメントユニット長
田中 裕

2013.7.25/26

オンコロジー領域 開発パイプライン (2013年7月25日現在)



ロシュグループ

	Phase I	Phase II	Phase III	Filed
がん	CIF/RG7167 (国内/海外) -固形がん CKI27/RG7304 (国内/海外) -固形がん PA799 (海外) -固形がん RG7414/parsatuzumab -固形がん RG7321/pictilisib -固形がん★	RG3502 /trastuzumab emtansine -胃がん (PII/III) GC33/RG7686 -肝がん RG340/Xeloda - 胃がん (アジュバント) AF802/RG7853 (国内/海外) -非小細胞肺癌 (PI/II) RG7204/vemurafenib -悪性黒色腫 (PI/II) ★	RG1273/Perjeta -乳がん (アジュバント) -胃がん★ RG435/Avastin -乳がん (アジュバント) RG3638/onartuzumab -非小細胞肺癌 GA101 (RG7159) /obinutuzumab -非ホジキンリンパ腫	RG435/Avastin - 卵巣がん RG3502 /trastuzumab emtansine -乳がん

オレンジ：自社品 ★：2013/4/25からの変更点

プライマリー領域 開発パイプライン (2013年7月25日現在)



	Phase I	Phase II	Phase III	Filed
骨・関節			RG484/Bonviva (経口) - 骨粗鬆症 NRD101/Suvenyl - 腱靭帯付着部症	
自己免疫疾患	SA237 -関節リウマチ RG7415/rontalizumab -全身性エリテマトーデス	MRA/Actemra (海外) -全身性強皮症★	MRA/Actemra (海外) -巨細胞性動脈炎★	MRA/Actemra (sc) (海外) -関節リウマチ
中枢神経	RG1450/gantenerumab -アルツハイマー病 RG1577 -アルツハイマー病★	RG7090 -大うつ病	RG1678/bitopertin -統合失調症	
その他	RG3637/lebrikizumab (海外) -気管支喘息 CIM331 -アトピー性皮膚炎 ACE910 -血友病A RG7652 (海外) -高脂血症 URC102 (韓国) -痛風★			CSG452/tofogliflozin -2型糖尿病★★

オレンジ：自社品 ★：2013/4/25からの変更点
★：興和株式会社、サノフィ株式会社が申請



開発の状況（オンコロジー領域）

導入品

RG1415 / タルセバ®

*EGFR*遺伝子変異陽性の切除不能な再発・進行性で、
がん化学療法未治療の非小細胞肺癌
2013年6月 承認

導入品

RG1273 / パーージェタ®

- HER2陽性の手術不能又は再発乳癌
2013年6月 承認
- 胃がん
2013年7月 P3国際共同治験開始

導入品

RG435 / アバスチン®

悪性神経膠腫
2013年6月 承認



開発の状況（オンコロジー領域）

導入品

RG597 / ハーセプチン®

HER2過剰発現が確認された乳がんにおける
術後補助化学療法への1週間間隔投与
2013年6月 承認

導入品

RG7321 / GDC-0941 / pictilisib（PI3K阻害剤）

固形がん
2013年6月 P1開始

導入品

RG7446 / MPDL3280A（抗PD-L1抗体）

固形がん
2013年下期 P1開始予定



開発の状況（プライマリー領域）

導入品

RG484 / ボンビバ®静注

骨粗鬆症

2013年6月 承認

自社品

MRA / アクテムラ®

- 多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎 (pJIA)

2013年4月 FDA承認

2013年6月 EMA承認

- 皮下注製剤（関節リウマチ）

2013年5月 発売（国内）

- 巨細胞性動脈炎

2013年7月 P3開始（海外）

- 全身性強皮症

2012年3月 P2開始（海外）



開発の状況（プライマリー領域）

自社品

CSG452 / トホグリフロジン水和物

2型糖尿病

2013年4月 申請（興和株式会社、サノフィ株式会社）

導入品

RG1577（MAO-B阻害剤）

アルツハイマー病

2013年5月 P1開始

自社品

URC102（URAT1阻害剤）

痛風

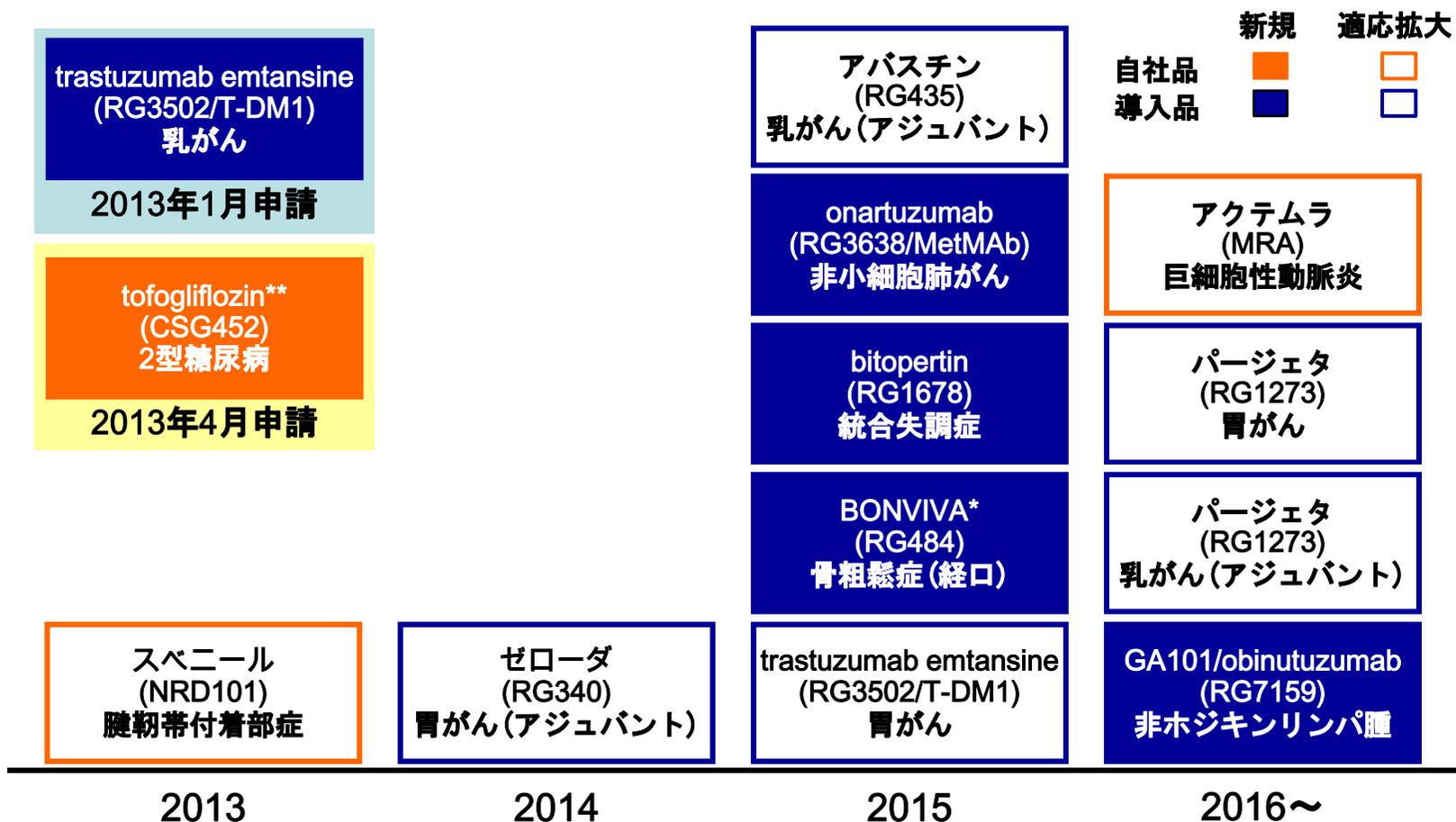
2013年6月 P1開始（韓国）

JW Pharmaceuticalとの共同開発



今後の申請予定 (PoC取得済製品・開発品)

■ 引き続き毎年、新製品/適応拡大等を申請予定

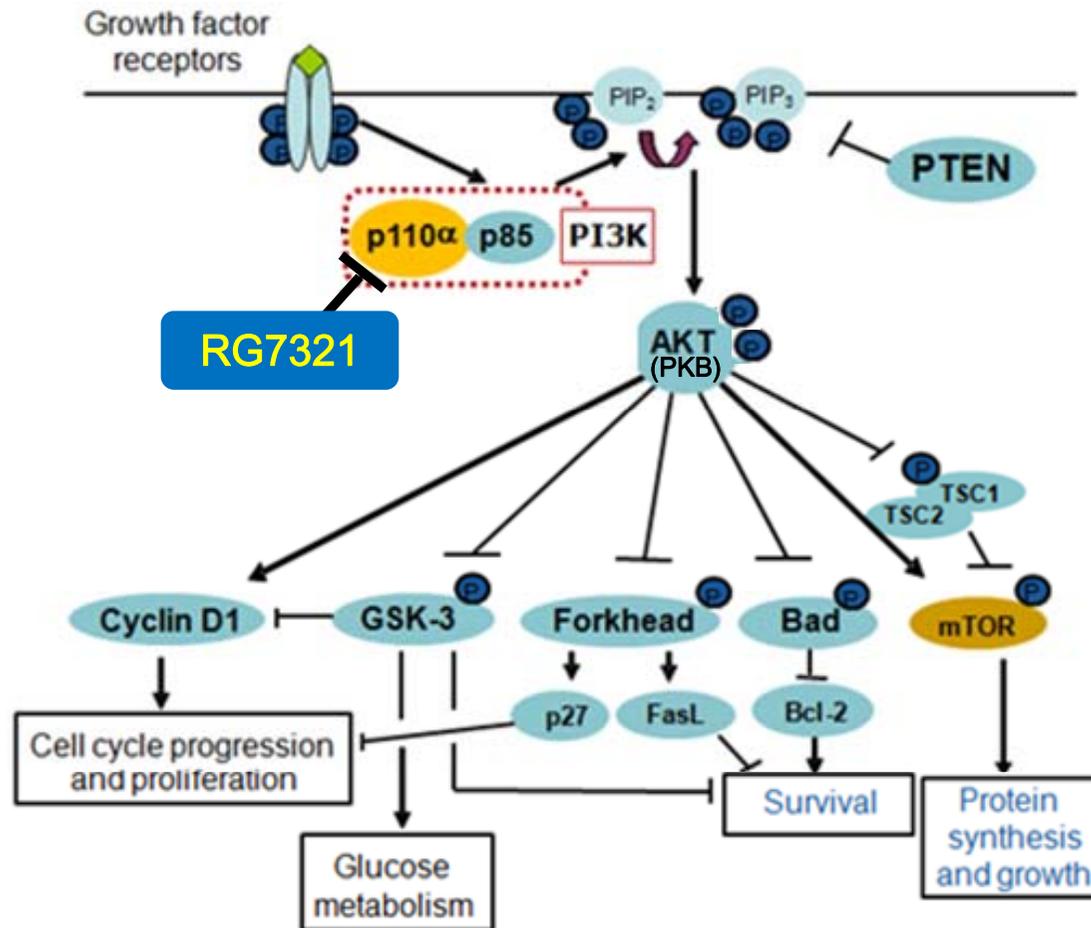


新規 適応拡大
 自社品 ■ □
 導入品 ■ □

* 海外製品名

** 興和株式会社、サノフィ株式会社が申請

RG7321 (PI3K阻害剤) - 作用機序



- PI3Kは、PI3K-AKT-mTOR経路を通じて受容体のシグナルを細胞内へ伝達
- PI3Kは、がん細胞の増殖や浸潤、抗がん剤の耐性獲得に寄与^{1) 2)}
- RG7321は、PI3Kを強力かつ選択的に阻害する新規の低分子抗悪性腫瘍薬

- 1) Liu P et al., Nat Rev Drug Discov 2009
- 2) Berns K et al., Cancer Cell 2007

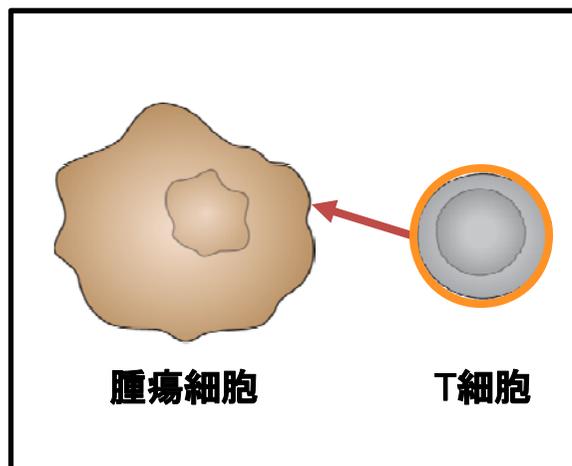
PI3K: Phosphoinositide 3-kinase

AKT (PKB): Protein kinase B

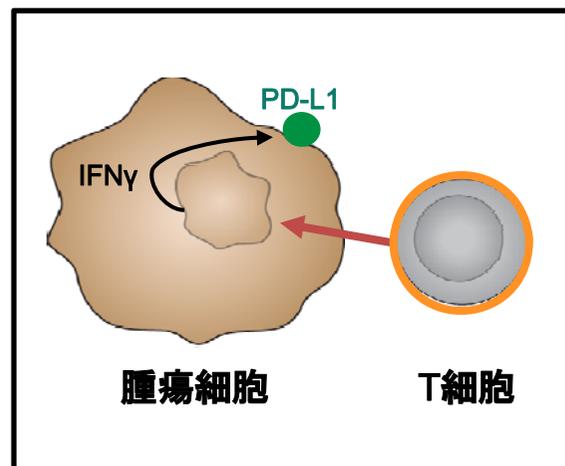
mTOR: mammalian target of rapamycin



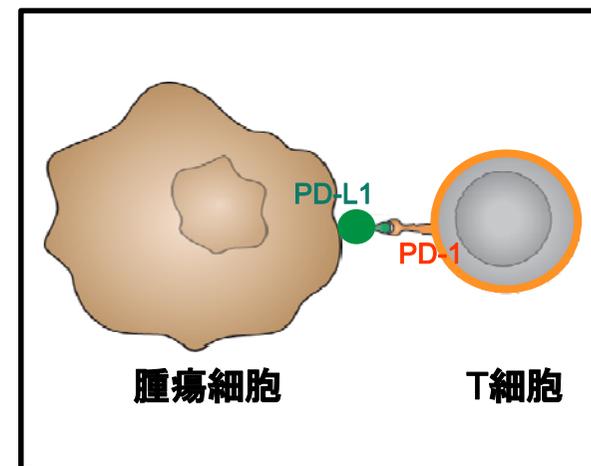
RG7446 / MPDL3280A (抗PD-L1抗体) - 作用機序



T細胞が腫瘍細胞を非自己と認識し攻撃する

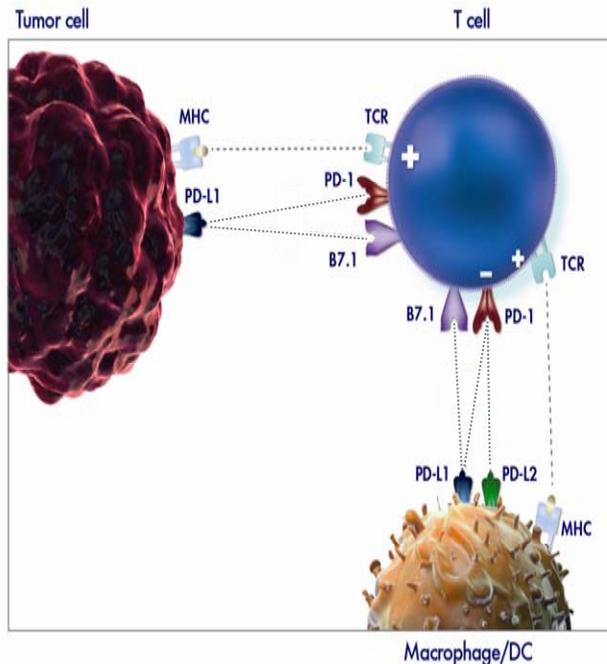


IFN γ などの刺激によりPD-L1発現が誘導されたり、腫瘍自身のOncogenic pathwayの活性化によりPD-L1を発現



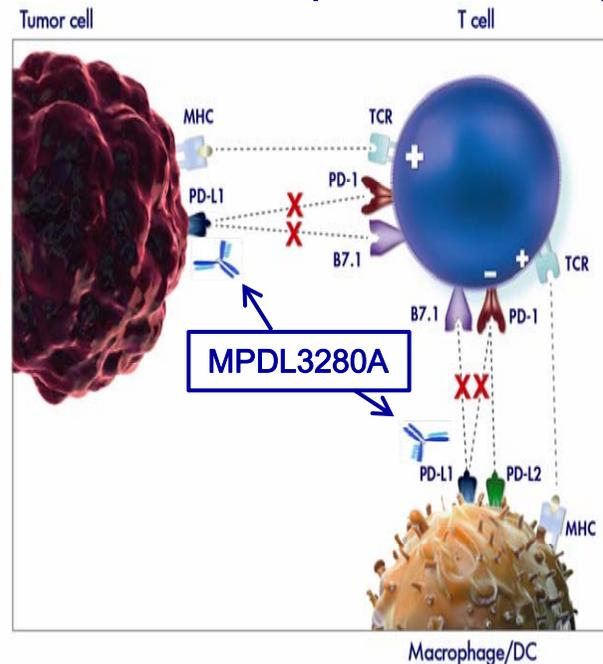
PD-1/PD-L1経路の負のシグナルによりT細胞が免疫寛容となり攻撃しなくなる

RG7446 / MPDL3280A (抗PD-L1抗体) - 作用機序



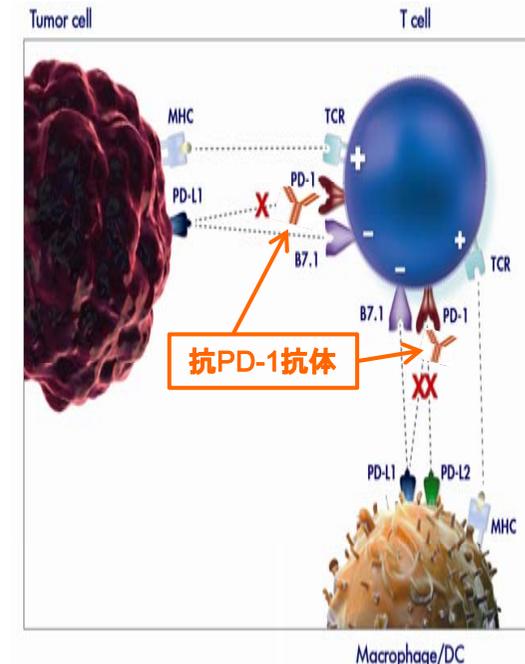
PD-L1がPD-1およびB7.1に結合することで抑制性シグナルが誘導されT細胞の免疫応答を負に制御

MPDL3280A (抗PD-L1抗体)



MPDL3280Aは、PD-L1に結合してPD-L1経路を阻害し、T細胞の免疫応答を維持することで抗腫瘍効果を発揮

抗PD-1抗体



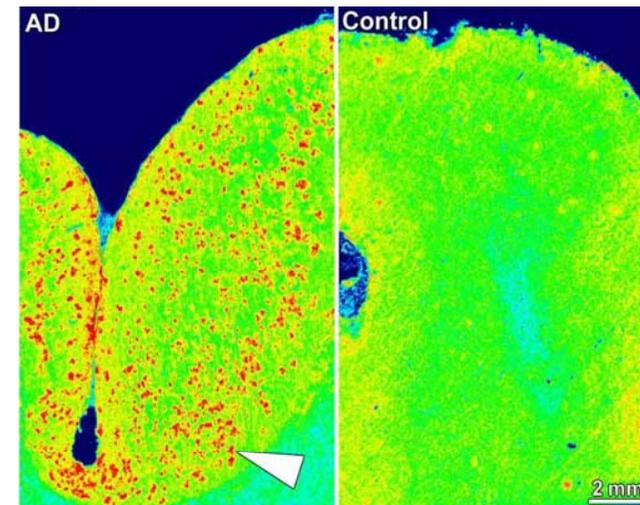
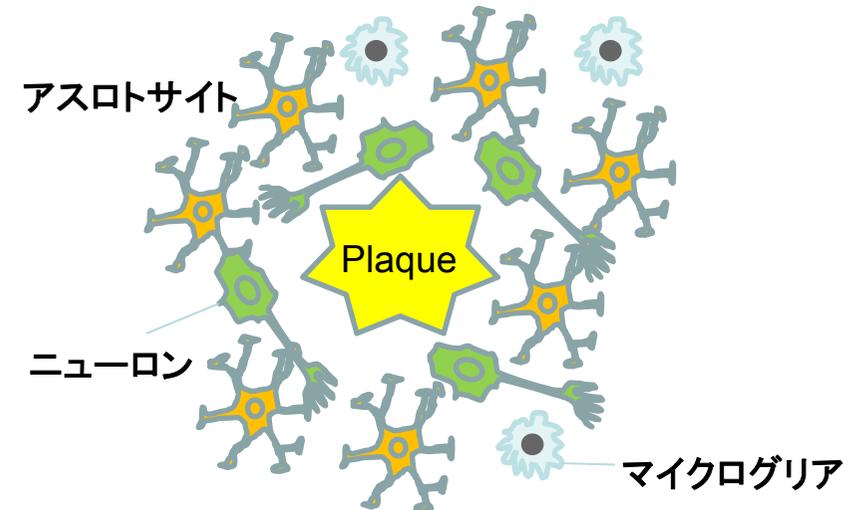
抗PD-1抗体はT細胞上のPD-1に結合し、B7.1を阻害することなく、PD-1を阻害する。PD-L2を介する通常の免疫恒常性も損なわれる

RG1577 (MAO-B阻害剤) - 作用機序

- MAO-Bは、ヒトの脳のアストロサイトや神経細胞に多い
- MAO-Bは基質を分解する際に活性酸素を産生
- アルツハイマー病患者 (AD) では健康成人 (Control) に比べ、MAO-Bの発現が増加

MAO-B：モノアミン酸化酵素
基質：フェニルエチルアミン、ドパミン

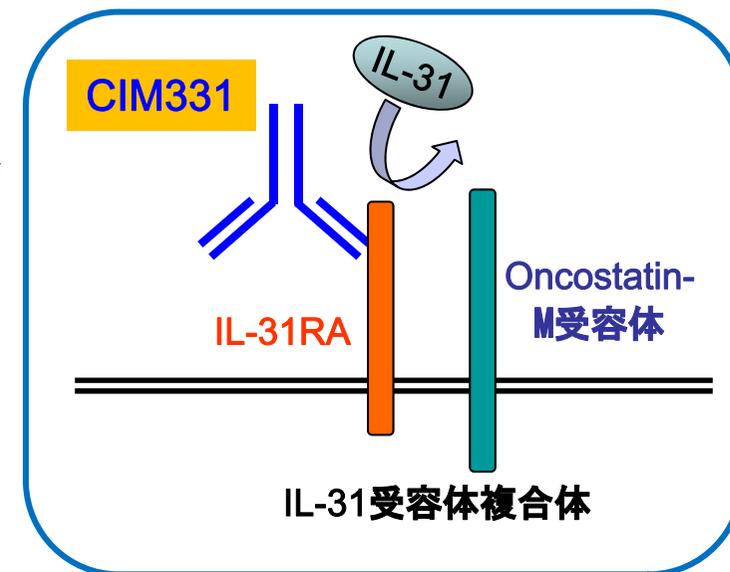
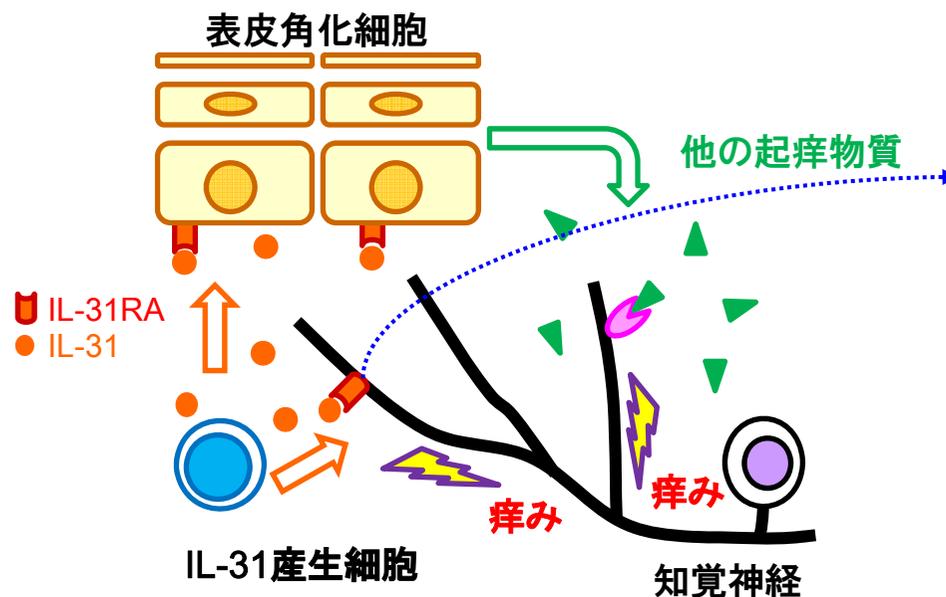
MAO-Bの阻害は、活性酸素を減らすことにより神経細胞をダメージから守り、認知機能の低下を抑制するとともに、基質を増加させることにより、無気力感や気分の落ち込みの改善が期待される



CIM331 (抗IL-31R抗体) - 作用機序

2013年10月のEADV (European Academy of Dermatology and Venereology) にて学会発表予定

- インターロイキン-31 (IL-31) は、アトピー性皮膚炎 (AD) のそう痒に関与
- CIM331は、IL-31が受容体に結合するのを阻害し、そう痒を抑制するとともに、itch-scratch-cycleの遮断による皮膚炎の改善が期待される





未承認薬・適応外薬の開発要請への対応状況

- 医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議
 - 第I回開発要請の8製品10適応症（用法・用量の追加を含む）のうち8製品9適応症については承認済み
 - 第I回開発要請品のうち対応中のアバスチン、第II回開発要請の3製品3適応症については下表のとおり

開発要請	製品	適応症	現在の開発状況
第I回要望 開発要請品	アバスチン	卵巣がん	申請（2012年10月5日）
第II回要望 開発要請品	アバスチン	再発膠芽腫	悪性神経膠腫として承認 （2013年6月14日）
	ハーセプチン	HER2過剰発現が確認された乳がんにおける術後補助化学療法への1週間間隔投与	承認（2013年6月14日）
	セルセプト	ループス腎炎	開発要請に対する企業見解につき検討会議での評価待ち

赤字:2013/1/30からの変更点

お問い合わせ先：広報IR部

報道関係者の皆様：

メディアリレーションズグループ

Tel : 03-3273-0881

e-mail : pr@chugai-pharm.co.jp

担当：相川、河原、荒木、吉村

投資家の皆様：

インベスターリレーションズグループ

Tel : 03-3273-0554

e-mail : ir@chugai-pharm.co.jp

担当：宮田、櫻井、時田、熊谷